

カント著「啓蒙とは何か」岩波文庫、岩波書店、1950 年 10 月 30 日刊を読む

## 啓蒙とは何か

1. 啓蒙とは、人間が自分の未成年状態から抜け出すことである。
2. 未成年とは、他人の指導がなければ、自分自身の悟性を使用し得ない状態である。
3. ところで、かかる未成年状態にとどまっているのは彼自身に責がある。
4. というのは、この状態にある原因は悟性が欠けているためではなくて、むしろ、他人の指導がなくても自分自身の悟性を敢えて使用しようとする決意と勇気とを欠くところにあるからである。
5. それだからこそ、「敢えて賢こかれ！」「自分自身の悟性を使用する勇気をもて！」  
\*「敢えて賢こかれ、やってみよ。正しく生活すべき時期を虚しく延引するのは、河が流れやむのを待つ田舎びとのようなものだ。だが、河は依然として流れ、とこしえに転旋して止むことがない」(古代ローマの詩人、ホラティウス)自分はすでに賢いのだ、という自覚をもて、の意。
6. これがすなわち悟性の標語である。

\*「悟性」とは(哲)(intellect イギリス：Verstand ドイツ)

①広義には、思考の能力。

②カントにおいては、感性に与えられる所与を認識へと構成する概念能力・判断能力で、理性と感性の中間にあり、科学的思考の主体。

〈広辞苑〉

\*「悟性」とは、物事を論理的・知的に思考する能力

〈明解国語辞典〉

P7

## [コメント]

カントの啓蒙についての定義は、現代の人々にも胸を打つ。未成年とは何かの定義は、現代を生きる一人ひとりが自らを振り返り、深く考えるべきと痛感する。カント哲学の基本文献中の基本文献。じっくりと読み、考えたい。

－ 2013 年 2 月 25 日 林 明夫記 －